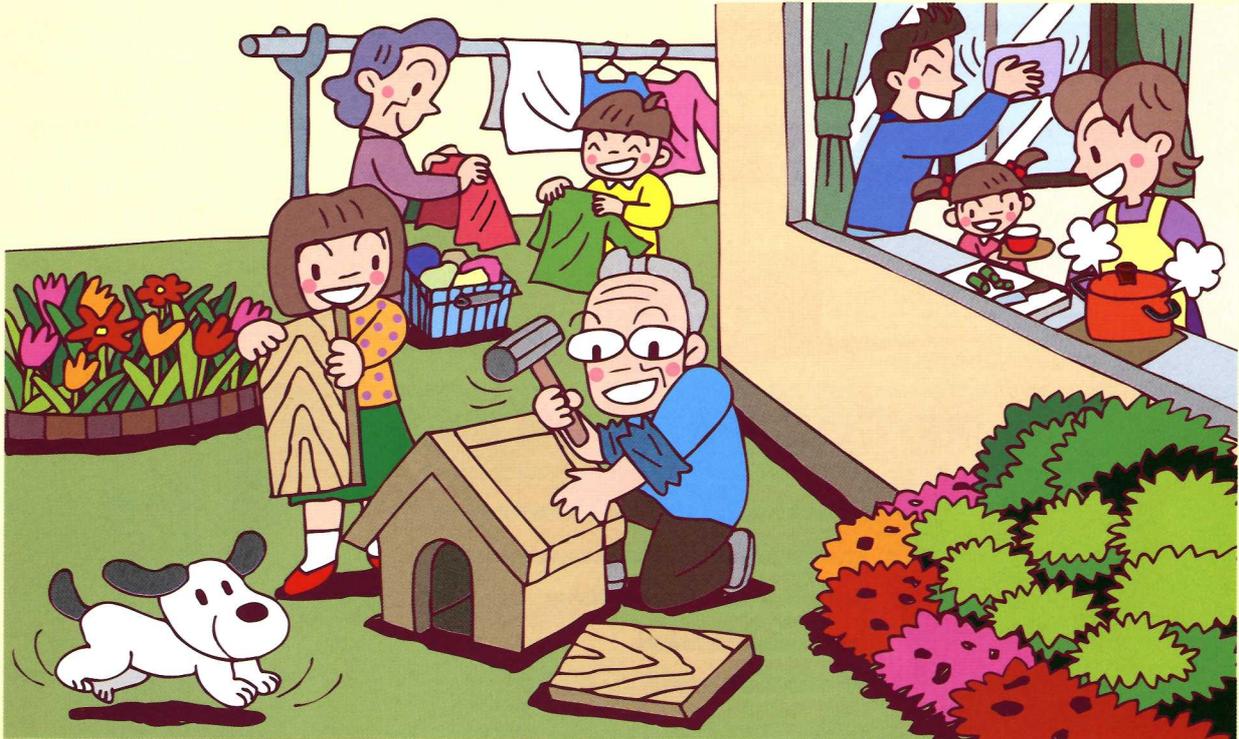


家庭の元気応援キャンペーン

早寝早起き朝ごはん 本を読んで外遊び みんな仲良く今日も元気

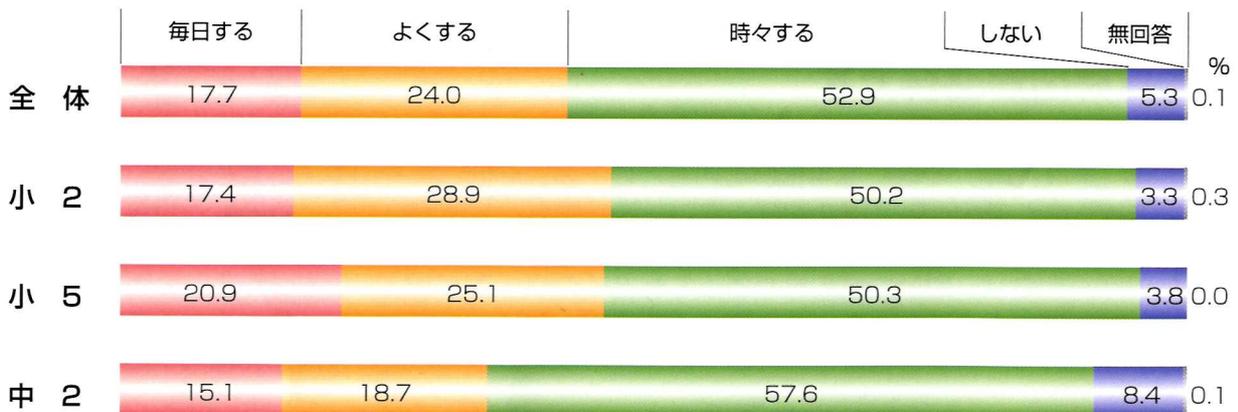


- ◆ 基本的な生活習慣の定着
- ◆ お手伝いの定着
- ◆ 家族がふれあう機会づくり
- ◆ 父親の家庭教育参加

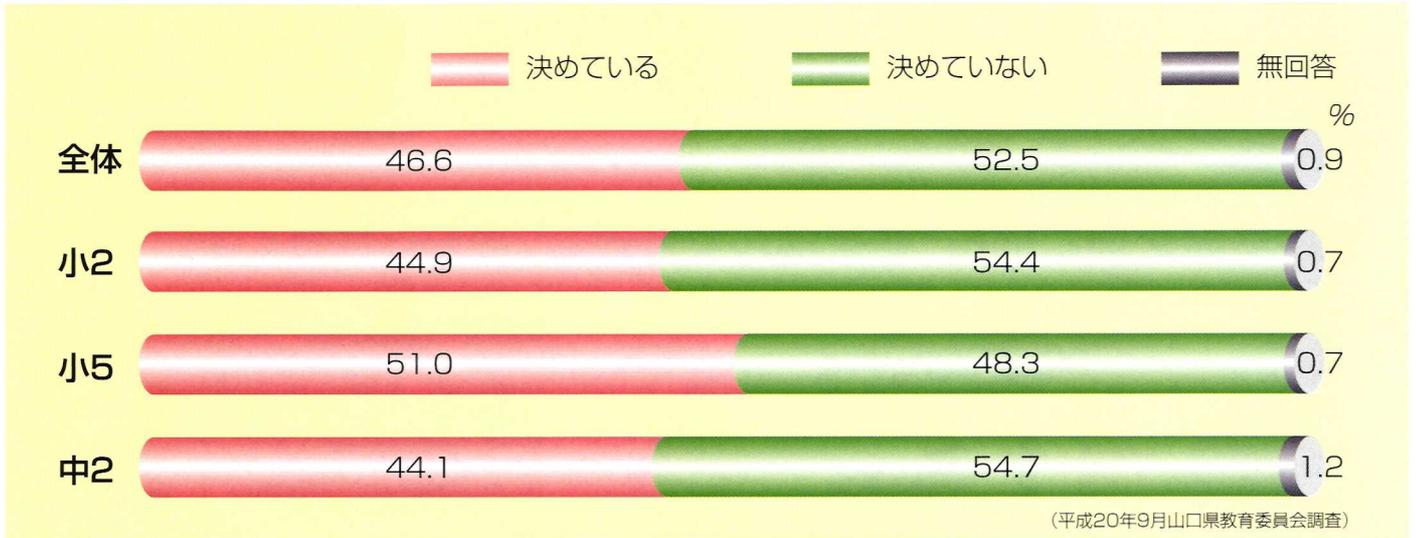


していますか？ お手伝い！

GO

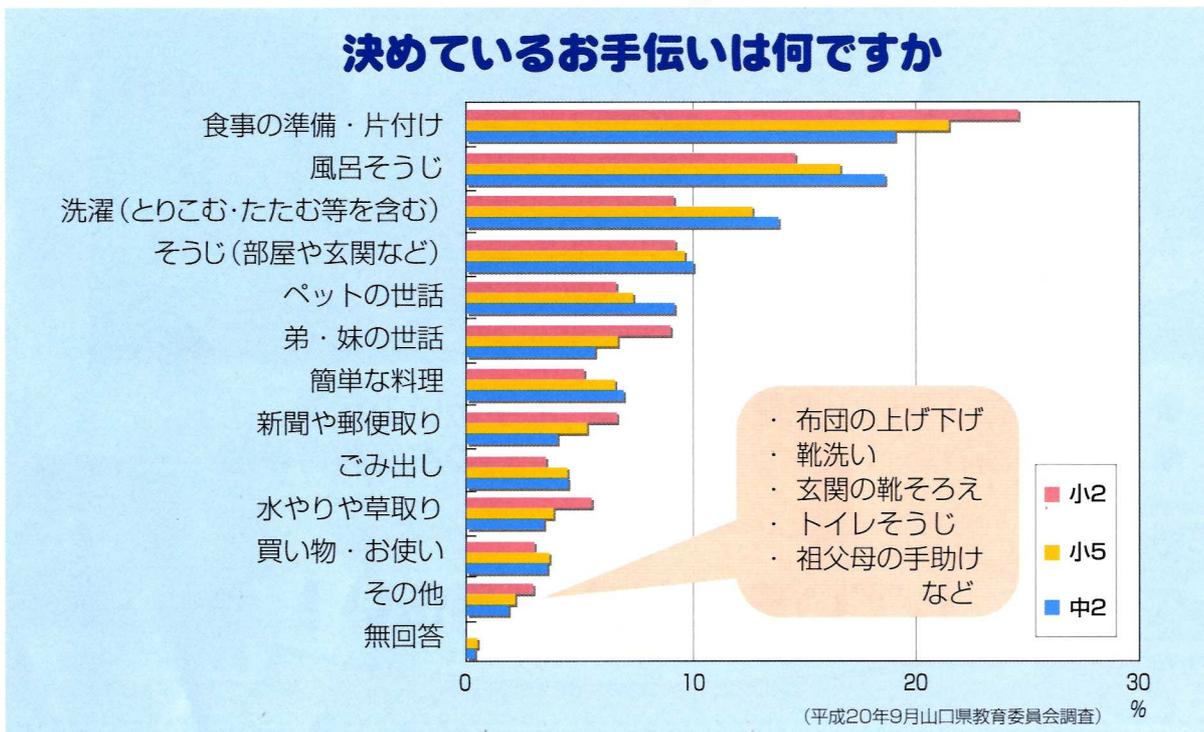


お手伝いを決めていますか



どんなお手伝い？

決めているお手伝いは何ですか



どんな効果が？



最初は時間が必要です

山口大学教育学部
教授 松田 信夫

子どもはお手伝いの活動を通し、自分に家族を支える力があることもわかってきます。山口県教育委員会の調査(平成20年)では、お手伝いの内容として多いのは、食事の準備・片付けや、洗濯(とりこむ・たたむ等)などでした。食器を運び、洗い、洗濯物をたたんでいる子どもの姿が想像されます。同時に、洗い方やたたみ方を教える親御さんの姿も連想されます。

最初の頃は、手取り足取りの教え方であっても、そのうち子どもは要領をつかみ、失敗しながらも、次第に一人でできるようになっていきます。「私(親)がやったほうが早いのに」と心で思いつつも、子どもにさせてみる、何回も教える、といったかわりを通して、親の技能が次第に子に受け渡されていきます。

時間的な能率だけからすれば、大人の手でテキパキやってしまうのが断然早いのですが、そのような家庭では、子どもの技能も、そして心も育ちません。手伝いを教えるには、最初はやはり時間が必要です。愛情をもって、根気強く取り組みましょう。



家族の一員として役割を果たすお手伝いの体験は、自立への自信につながります。

お手伝いにはいいこといっぱい！



誰かのお手伝いをする事は、その人を気遣い、思いやることにつながります。

保護者の方に聞きました！お手伝いをどう思いますか



子どもと共に歩むお手伝い

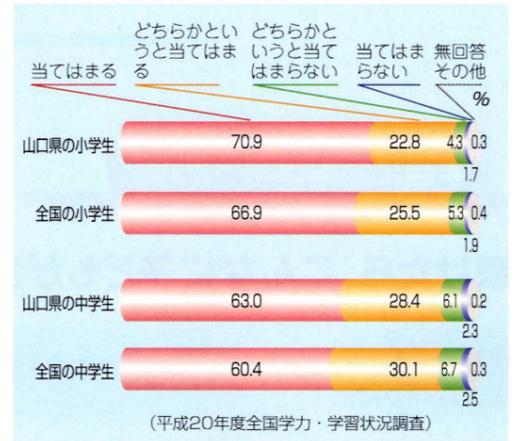
玖珂保育園 園長 桂 信一

幼児期における「お手伝い」は、子どもが一人でできるまで成長していないので、多くの場合保護者の負担を伴います。ですから幼児に「お手伝い」をさせようとする場合、保護者がどれほどお手伝いをさせようと思っているかが、思いの外重要なポイントになります。

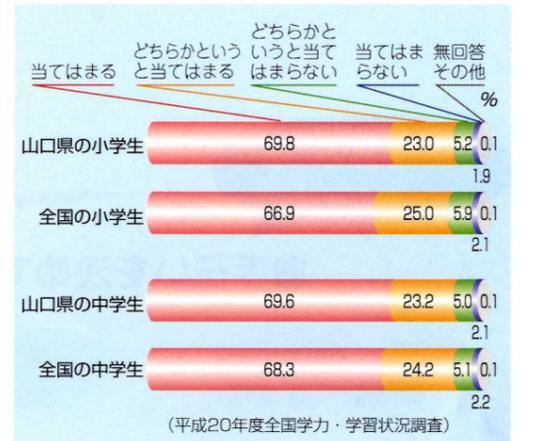
こう考えてみると、子どもたちに「お手伝い」を始めさせるためには、保護者が今以上に子どもに関わり、子どもとのふれあいや対話に時間をかけることが大切だということがわかります。その上で、子どもたちが「お手伝い」をすることによって一定の充足感や達成感を味わうことができたなら、定着へも向かうと思います。

山口県は、「当てはまる」と回答した割合が、全国より高い傾向にあります。

人の役に立つ人になりたいと思いますか



人の気持ちが分かる人になりたいと思いますか



① 第一歩は？

お手伝いの第一歩は、自分のことができるようになること。年齢に応じて、できるだけ小さい頃から、「自分の身の回りのこと」をさせてみましょう。



お手伝いなるほどアドバイス

自信をもって 子どもに積極的に関わりましょう



② はじめるタイミングは？

子どもが、「やってみたい！」と思ったタイミングがチャンス。子どもの「やりたい気持ち」を受け入れ、思い切ってやらせてみましょう。

③ 嫌になったときは？

嫌なことを我慢する経験も大切。小さい頃から経験を重ねることで、つらいことに耐える力が身につきます。



④ 続けさせるには？

親子で、お手伝いを決めましょう。家族で決めた約束を守ることで、責任を果たすことができるようになります。

⑤ 興味をもたせるには？

子どもは、楽しいことが大好き。はじめは、親子で一緒に楽しみながらやってみましょう。



⑥ 進んでさせるには？

時間がかかっても、うまくできなくても、手を出さず、待つことが必要。「自分でできた」という自信は、次への意欲につながります。

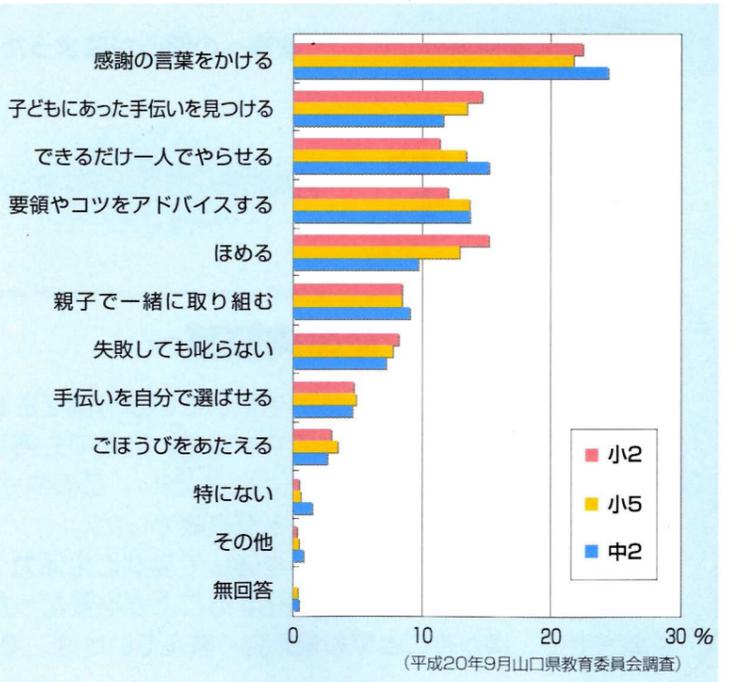


⑦ ごほうびは？

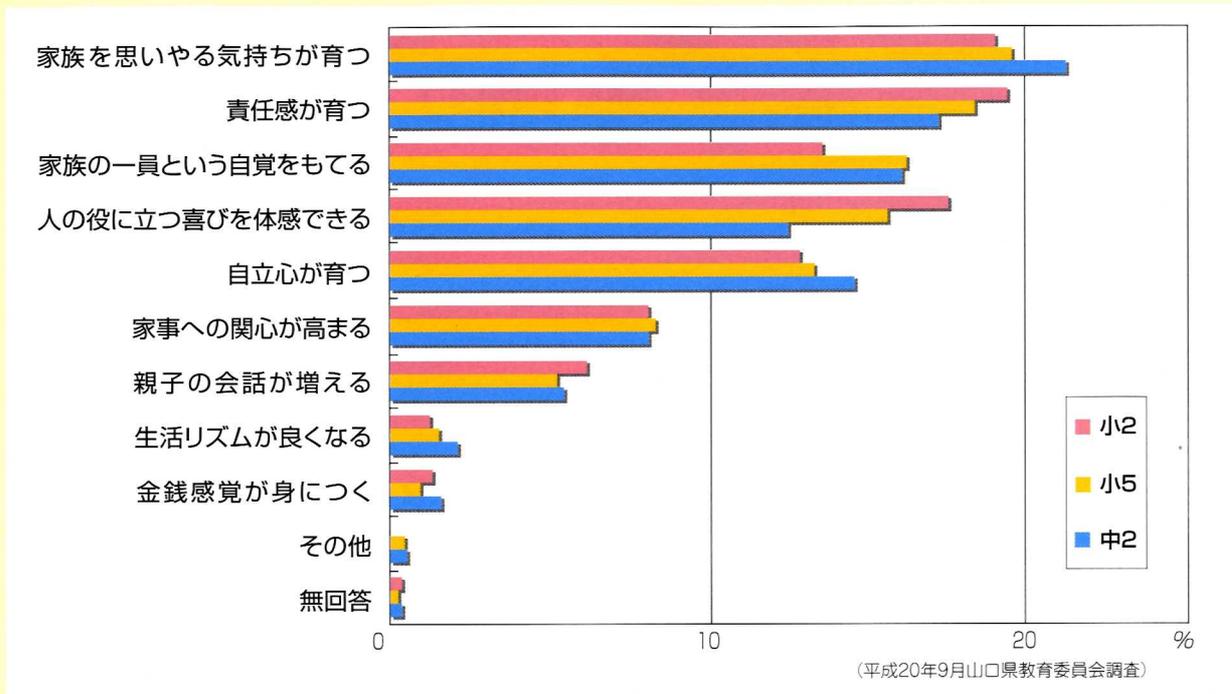
子どものがんばりを認めて、しっかりほめましょう。親からの愛情や感謝、励ましが一番のごほうびです。



お手伝いについて親が気をつけていること



保護者が期待するお手伝いの効果



保護者のコメント

本当に効果はあったの？

お手伝いを決めて続けたら、こんなに子どもが変わった！

がまん強くなった
根気強くなった

家族の約束を
守るようになった

責任感が生まれた

家族の会話が増えた

家族を気遣うようになった

家族に感謝の言葉を
言うようになった

兄弟姉妹で
協力するようになった

家事への関心が高まった

進んでお手伝いを
するようになった

仕事の段取りがよくなり、
工夫するようになった

時間の使い方が上手になった

食事を残さず
食べるようになった



(平成20年9月山口県教育委員会調査)

こんな効果も！

「お手伝い」～私の失敗談～

山口県PTA連合会
副会長 吉 廣 幸 江

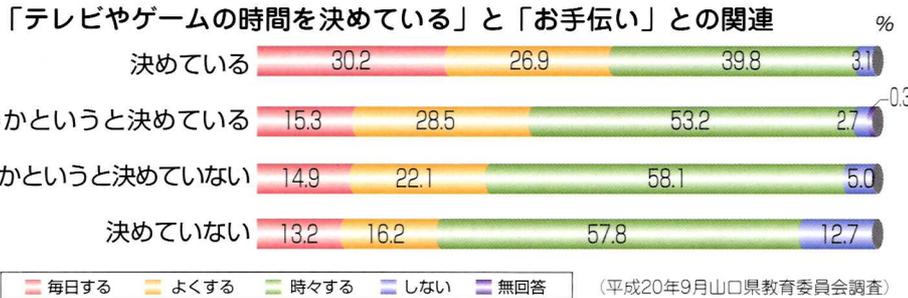
私の場合、子どもたちにはお手伝いという意識をさせず、「あれやって」、「これお願い」と、その時々でできることをさせてきました。兄弟でも得手不得手があり、嫌がれば違う事に変えて、得意分野をやってもらってきました。しかし、このやり方では、できることが偏ってしまったこと、言わなければやらなくなったことが失敗でした。

親自身の反省から、お手伝いを通して自然に生活力（技術）を身につけるだけでなく、「約束」として少し強要してでも、習慣化することが必要だったと思います。そして、もっと多くのことに挑戦させて、嫌がることでも根気強く教えていけば、できることが増えたのではないかと思います。

「お手伝い」と「生活リズム」

「早寝 早起き 朝ごはん」など、規則正しい生活リズムは、子どもの心と体の健やかな成長に欠かせません。1日の生活の中に、お手伝いを取り入れることは、規則正しい生活リズムをつくるきっかけになります。

また、望ましい生活リズムの一つとして、「テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間」を決めることが大切です。



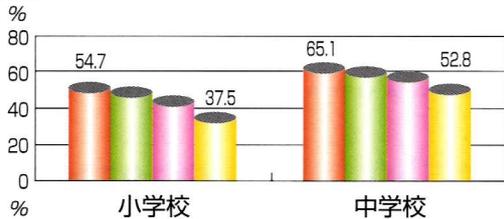
平成20年度全国学力・学習状況調査では、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間が短いほど、正答率が高い傾向がみられます。

「お手伝い」と「家族のコミュニケーション」

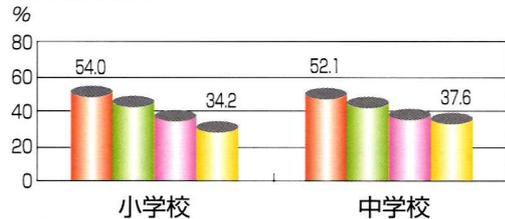
「お手伝いには、子どもの成長にとってよいことが、たくさんあります。そのひとつに「家族とのコミュニケーションの機会が増える」ことや、「ものごとを最後までやりとげた達成感を味わえる」ことがあります。

平成20年度全国学力・学習状況調査では、「家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒」また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある児童生徒」の方が、正答率が高い傾向がみられました。

「家の人と学校での出来事について話をしていますか」と正答率(国語)



「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」と正答率(算数・数学)



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない (平成20年度全国学力・学習状況調査)

お手伝いで育まれる“生きる力”

山口市立宮野小学校 校長 永久眞知子

長年の経験から、お手伝いをする子どもほど学校の成績もよいと感じていましたが、アンケート結果を見て納得です。お手伝いをしている子どもたちに「責任感」「役割を果たすことからくる自信」「感謝」という思いが芽生えていることが分かるからです。

家族の一員として責任を共有し、任された仕事をやり抜くことで、工夫する力や問題解決能力が育まれます。また、感謝し感謝されることで人とかかわりを学び、優しさを養うことにもつながります。

子どもにとって好ましいことばかりでない世の中だからこそ、家庭でのお手伝いを通して育まれる「責任感」「自信」「感謝」が、自己肯定感を育み、生きる力を育てる第一歩になると思います。

家庭の元気応援キャンペーン

家庭の元気

検索



クリック

お問い合わせ

山口県地域家庭教育推進協議会
事務局 山口県教育庁社会教育・文化財課内
TEL 083-933-4661
FAX 083-933-4669